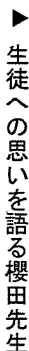


見学旅行を振り返って
2年ぶりにコロナ禍以
前の形での実施となつた
見学旅行。櫻田先生は、さ
まざまな制限の中ではあ
るが予定通りに見学旅行
が行われたことに喜びを
感じている。その一方、現
3年次生が通常の見学旅
行を行えなかつたことや
出発前に感染して参加で



きなかつた生徒、また旅行中に感染してしまった生徒のことを考えると「100パーセント喜べる状態ではない」と率直な感想を明かした。

今回の見学旅行において先生は「とにかく生徒が楽しむこと」を意識したそうだ。そのため、生徒を規則によって管理するのではなく「生徒側と教師側との信頼関係の下、決められたルールの中で楽しむことが大切」と考えてい

研修班は原則男女別

ブルが生じた場合に、残された何人かのうち、助けを呼びに行く人が1人と体調不良の子に付き添う人

疑問

研修班は原則男女別

ジェンダー問題との関係は

が1人と、最低2人は必要であるからだという。

「男女別」に関しては、「古臭い考えかもしれないが

異性が少人数で集まると、男女間のトラブルのことを考えなくてはならなくなる」と答えてくれた。そ

のトラブルを防ぐためというのが大きな理由だという。ジェンダー問題との関係については「個人とし

1日目 清水寺

10月30日、生徒は女満別空港に集合し旅の始まりを待っている。(互いの私服や今後の予定などについて話しながら、羽田空港行き飛行機に乗り込んだ。羽田空港から伊丹空港行きの飛行機に乗り換え、午後3日目時頃大阪府へ入った。)空港からさるにバスで移動し、最初に観光地「清水寺」に着いた。各々写真撮影やお土産を購入し満足した様子で1日目を終えた。

2日目 自主研修

午前8時半から何人かのグループに分かれての自主研修が始まった。数か月前から計画していた通りに、京都市内や大阪、兵庫などを観光していく。

午後8時生徒たちが
たくさんの袋を抱えて
帰ってきた。主に買い
物をしてきた人が多
く、購入品や研修中
の話をしながらホテ
ルへと向かった。

手荷物に入りきらな
いものを自宅に郵送
し、2日目終了した。

3日目 USJ

3日目は1日中ユニ
バーサルスタジオジ
ャパンでの研修とな
った。朝から雨が降
っていたが、パーク
内で販売されている
レインコートを着用



▲伏見稻荷神社の入り口

アトラクションを楽しんだ。昼食・夕食をパーク内で食べ、高揚した気分のままホテルへ帰った。前日に引き続き徒歩での移動のため疲労困憊という人も現れ始めた。

4日目 東大寺

早朝からバスで移動し、最後の観光地「東大寺」へ向かった。到着前から公園内に多くのシカがいることがわかる。公園に入りシカと戯れ、ガイドさんの丁寧な説明のもと金剛力士像や奈良の大仏を見学することが出来た。

その後伊丹空港へ移動し、1日目と同様に羽田空港に向かった。羽田空港から女満別空港への飛行機内では寝ている生徒がほとんどで、見学旅行を楽しみつくしたことが見て取れた。女満別空港で解散となり4日間に渡った見学旅行は無事終了した。

夏炉冬扇

▼最近は日が落ちるのも早くなり、底冷えするような寒さの日が続いている。そんな今の時期にはストーブやカイロなど、体を温めてくれる道具が恋しくなることだろう。特にカイロは気軽に持ち運べるうえ、どこでも温まる事ができるので、冬の寒さが厳しい北海道では重宝されるアイテムの一つだ。このように暖をとる道具の名前には、「炉」という漢字が含まれる場合が多い。（懐炉、暖炉、囲炉裏など）▼「炉」という漢字は、この社説の題名である「夏炉冬扇」という四字熟語にも含まれている。この語の由来としては、中国後漢時代の王充（おうじゅう）という思想家が「論衡（ろんこう）」という名の思想書の最初（逢偶）で、「作無益此能 納無補之説以夏進鑪 以冬奏扇」（何の役にも立たない才能を君主に奉ず、何の足しにも

夏炉冬扇

1. *Journal of the American Medical Association*, 2000; 283: 2689-2694.

るといふ。

経験を学びに

櫻田先生は2年次生に「『人は財なり』という考えから人との関わりは非常に重要である」と述べ、2年次生に人との関わり方を教えて直してみてほしいと教えてくれた。

例えば、見学旅行の事前準備の際、自主研修などの班決めに時間を要したことから「自分の思うようにならず、不満を抱いている人にどのようなして手を差し伸べるかなどを学んでもらいたい」と思いを語

った。加えて、見学旅行の様子をSNSに投稿していることに對して「他の年次がそれを見てどう思うかなどにもう少し配慮できるとより良かった」と反省点も話した。その上で「この年次の最大の武器は素直さである。その素直

すのは、夏に囲炉裏を勧め、冬にうちわを差し上げるようなものだ」と述べたことから来ており、この文章の太字の部分が「夏鑪冬扇」として、「夏の囲炉裏や冬の扇のように、季節外れや時季外れで、役に立たないもの」という意味を長

© 2006 The Authors
Journal compilation © 2006 Blackwell Publishing Ltd

▲自主研修計画つづり 見学旅行のしおり

との関わりを大切にしてほしい」と述べた。

さらに先生自身も今回の旅行で「生徒に何か頼む時に、自分が人として、教師としてできていなかったら説得力を欠く」ということを考え、生徒と信頼関係の下繋がついていくことの重要性を再認識したと教えてくれた。

▼夏炉冬扇（現代では鑑が
炉とも表記されるようにな
った）の意味は、「役に
立たないもの」だが、この
言葉の意味を知るのは
「役に立つ」はずだ。物事
が夏炉冬扇であるかどう
か、正しく見極める力を身
につけていくこともこれ
からを生きる上で大切な
のではないだろうか。

（文責 歌丸）
